

確かな学校改善につなげる学校評価の取組

札幌市立緑丘小学校

I はじめに

学校改善に結び付いた学校評価

1 本校における学校評価のねらい

本校においては、学校重点目標の具体化に向けて、教職員の共通理解を図るとともに、子どもの育ちの過程を踏まえた2期4ステップの年間の評価サイクルを設定し、学校改善につなげる学校評価の取組を展開している。

各ステップごとに、目指す子ども像「かがやく子」（自立）「ひびき合う子」（共生）に照らして、各分掌・学年ごとに指導内容や学年に応じた具体目標を立て、毎月の職員会議や中間評価・年度末評価で、子どもの育ちと指導の手だてを話し合い、随時改善を進めている。また、実際の教育課程の取組や活動を、より確かなものにするために、教職員以外の声を学校改善につなげる取組も合わせて重視し、確かな教育課程の実施を目指している。

このように、教師、子ども、保護者・地域の声や力を学校改善に生かす学校評価の取組そのものが、学校としての説明責任であると考えている。特に、毎日の授業や指導、参観日等の行事、保護者との信頼・連携が最大の説明責任を果たす場であるとの認識に立ち、教師力を向上させるための学校評価を大切にすることとした。

2 昨年度の学校評価を基にした改善点

本校では、昨年度の学校評価の取組を基に主として以下の改善を進めた。

- (1) 全校児童による入学式参加体制についての再検討
- (2) 運動会の日曜開催から土曜開催への変更
- (3) 諸会議の効率的・効果的運営につながる協議・確認事項の取扱い
- (4) 職員朝会の簡素化（連絡事項の紙面連絡）
- (5) 勤労生産・奉仕的行事の取組の見直し
- (6) 個人情報の保護、危機管理の一元化へ向けた児童調査票の改訂
- (7) 朝の活動、教育ボランティアの全校的な取組の共通化
- (8) 登校時間帯及び下校時刻の徹底・周知と連絡網の見直し
- (9) 緊急下校体制の確立へ向けた保護者引渡し訓練の実施



学校説明会（4月）

次年度の学校課題を明確にする

上記の改善点について、すぐに始められるものから取り組むことで、学校評価の意味や価値を実感することができた。また、年度始めの教育課程全体会において、昨年の年度末評価から今年度の教育課程推進テーマを『信頼される確かな教育活動の展開～子どもたちへの確かな力を育む教師の確かな支援と保護者との連携～』と設定し、以下の7点を主な学校課題としておさえ、4月の学校説明会で取組の重点を保護者へ説明した。

- ①目指す子ども像（行動目標）へ迫る具体の取組
- ②外部評価委員会の学校評価へのかかわり及び教育課程への位置付け
- ③幼・小・中連携の在り方
- ④情報管理と運営体制の確立
- ⑤学校図書運営構想と教育課程の位置付け
- ⑥児童・保護者アンケートの取組方と返し方
- ⑦学習指導要領改訂に伴う学校としての体制づくり

II 本校の学校評価システム

教育課程委員会の役割

1 自己評価と評価委員会

本校では、教育課程を適切に推進するための組織として特別委員会「教育課程委員会」を校務分掌に設置し、本校としての学校評価の理念や学校重点目標の具現化について、教職員の共通理解を図るとともに、年間の学校評価サイクルを教育課程の中に位置付けている。

教育課程委員会は、教務主任を中心とした各特別委員会担当総務・各校務部長、各部門長、教頭で構成している。さらに教育課程委員会の中に、教頭・総務で構成する「教育課程プロジェクト」を設定し、本校の教育活動の取組や改善への見通しを立てながら教育活動を進めている。

また、より確かな自己評価を進めるため、中間・年度末の2回の学校評価を行う際、教職員による評価、児童・保護者によるアンケート、学力調査結果、運動能力調査結果を基に、各校務部・特別委員会ごとに独自の自己評価をしっかりとまとめた上で、学校としての改善点や共通確認事項を教育課程委員会で焦点化し、効率的な学校評価を進めている。

特に教職員評価の評価項目の設定に当たっては、学校重点目標の具現化を目指す教育課程推進の指標としての意味と、より客観性・信頼性のある自己評価を目指し、学校評価ガイドラインの指標に沿った評価項目の設定と4段階の数値評価を行っている。

教育課程全般を広い視野からとらえ評価数値の平均・分布を分析することから、従来の感覚的な評価や個人意見に左右される自己評価からの脱却を図ることができると考えたからである。

2 学校関係者評価（外部評価）

本校では、昨年度、全職員による「学校評価ガイドライン」の研修会を行い、ホームページ公表のねらいや意義、公表への配慮事項等を共通理解した。併せて、保護者・地域に信頼される開かれた学校づくりに向け、客観的に評価いただく外部の組織が必要であることを確認し、外部評価委員会を設置することができた。

しかし、手探りの中で進めたため外部評価委員会開催が2月となり、年度末3月にまとめた本校の自己評価書に対する評価意見を教育課程に生かすことができなかった。そこで、今年度の学校課題として外部評価委員会を年度始めに本校の学校評価システムの中に位置付けるとともに、「本校の応援団」として中間評価や年度末評価につなぐこととした。その上で外部評価委員会を、本校では学校関係者評価ととらえ、年間の評価サイクルへのかかわりを共通理解するとともに、中間の自己評価書と外部評価書の作成とその活用、年度末の学校評価結果を公表していくことを再確認することができた。

今年度は、中間評価後の10月に中間の自己評価書をまとめ、第1回の学校関係者評価委員会を行い、学校関係者評価を教職員に周知し後期の教育実践につないでいる。

また、年度末評価後の3月には第2回の学校関係者評価委員会を行い、次年度へつなぐ評価と改善への見解をいただく予定である。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自 己 評 価			学校関係者評価
	学校（教職員）	児童生徒	保護者・地域	学校関係者評価委員会
4	学校経営方針の周知・確認 土曜学習参観懇談 （学校説明会①・PTA総会） 家庭訪問	錫勃・学習調査 知能検査（2・5年） 学力検査（2年以上）		土曜参観・学校説明会・PTA総会見学
5	教育課程全体会① （学校課題・学校関係者評価立ち上げ確認） 方面別集団下校訓練 運動会	運動能力検査（走）		運動会観覧
6	郷土の日（地域清掃） 学習参観懇談 事前授業検討会 遠足	運動能力検査（跳・投） 振り返りカード	スクールゾーン 実行委員会① 中学校区青少年 健全育成推進会	
7	教育課程全体会② （前期学年・学級経営交流会、学校課題検討） 教育実践研究会 教育相談	児童アンケート		研究会参観
8				
9	みどりのわピクニック 中間学校評価 （前期自己評価・後期への改善案検討） 学習参観懇談	交流カード 楽しい学校生活を 送るための調査		
10	自己評価書（中間）作成 保護者引渡し訓練 土曜参観・PTA わくわくランド緑丘			第1回学校関係者評価 委員会 外部評価書（中間）作成 わくわくランド観覧
11	表現学習発表会	振り返りカード 札幌市いじめに 関する意識調査	スクールゾーン 実行委員会②	表現学習発表会観覧
12	教育相談 教育課程全体会③ （後期学年・学級経営交流会、学校課題検討） みどりっこまつり	振り返りカード	保護者アンケート	みどりっこまつり観覧
1				
2	学習参観懇談 年度末学校評価 （後期自己評価・次年度への改善案検討） 学校説明会②（錫勃・学習調査結果公表） （自己評価結果概要と次年度改善案公表）	特活アンケート	スクールゾーン 実行委員会③ テーマ別検討会	学校説明会参加
3	自己評価書（年度末）作成 教育課程全体会④（次年度教育課程構想） 卒業式 PTA 運営委員会（自己評価の公表） 懇談会 自己評価書・外部評価書のHP 公表	振り返りカード		第2回学校関係者評価 委員会 卒業式観覧 外部評価書（年度末）作成

IV 学校評価の方法

評価項目の重点化を図る

1 自己評価

(1) 項目の設定

本校では、実際の評価に当たっては、事細かに反省・評価をするのではなく、重点化して自己評価につなげることが大切であるととらえている。

本校の自己評価においては、学校評価ガイドラインに沿って学校重点目標の具現化へ向け、広い視点からの自己点検を行うことを目標に、「教育課程の編成と実施にかかわる評価」「教育課程の編成と実施を支える諸条件の評価」の視点から8指標 54 の評価項目（重点目標、学習内容、生徒指導、運営・組織、研修、情報公開・危機管理、施設・設備、開かれた学校）を教職員評価として設定した。また、この教職員評価項目と関連させながら、自己評価書作成に向け、保護者・地域の方々へ公表すべき評価項目として5指標 38 の評価項目（重点目標、学習内容、生徒指導、情報公開・危機管理、開かれた学校）に重点化し自己評価している。

(2) 児童・保護者アンケートの実施

本校では、教職員評価をより確かなものにするための、中間評価の際に児童アンケートを実施し、その結果を自己評価に生かしている。同様に、年度末評価では保護者アンケートを実施している。その際には、教職員評価と関連させ重点化した評価項目を設定し、直接的に自己評価につなげることができるよう配慮している。

(3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成と改善策の検討

4段階の数値評価の平均値と分布状況を踏まえた教職員評価結果の分析と、学力・運動能力検査結果、児童・保護者アンケート結果の分析を基に、各校務部・特別委員会ごとに協議・確認事項をまとめ、学校評価全体会で討議し自己評価書の作成を進めている。その際は、教育課程委員会を中心にホームページ公表も視野に入れ、次年度の改善の具体案を盛り込んだ3段階評価（「多くの成果をあげている」「一定の成果をあげている」「成果をあげる必要がある」）での自己評価書を作成している。今年度は、自己評価を過小評価する傾向があることを踏まえ、自分たちの頑張りや子どもの育ちについて過小評価することなく、自信をもって評価していくべきとの共通理解に立つことができた。また、改善策を具体化するために、教育課程委員会において学校課題を各校務部・特別委員会へ降ろし、教育課程全体会の中で各部からの改善案を出し合い検討することから、改善の取組を共通理解し自己評価書の中に表記していくようにしている。

2 学校関係者評価（外部評価）

確かな学校評価への検証を図る

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

本校の子どもの育ちや教職員の取組を日常的に見ていただいている方々、客観的専門的立場から評価いただける方々を中心に構成することが重要と考え、学校評議員・地域関係者・PTA 関係者を中心とする委員会を構成した。

本校の学校評議員は、大学教授、連合町内会長という立場の方々もおり、広く学校教育の在り方や校外での子どもたちの育ちについて、評価いただけると考えた。また、評価委員の役割として以下の3点をおさえている。

- ・学校関係者評価書作成への助言（評価項目設定への意見聴取）
- ・本校学校評価の取組への検証（自己評価・次年度改善案への評価）
- ・学校関係者評価書の作成

(2) 学校関係者評価書の作成

学校関係者評価書の作成に当たっては、評価項目の設定において、自己評価のおさえと同様、重点化して評価いただくことを重視している。

学校関係者評価委員には、本校の自己評価書を基にして、「子どもの育ち」「学習指導」「教育活動」「安全体制」「学校評価」の視点から評価と見解をいただいている。また、評価方法については、記述意見、口頭意見を集約した形で記述式で学校関係者評価書としてまとめ、ホームページに公表することとしている。

V 評価結果の公表

公表方法の多様化

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校説明会（4月）、学校説明会（2月）、PTA 運営委員会（3月）
- ・学校便り
- ・保護者アンケート結果説明資料
- ・学校ホームページ

2 公表の効果

保護者・地域への学校の取組・考え方についての理解の促進、また学校としての学校改善に向けた取組の具体的な姿を発信することで、保護者・地域との確かな信頼と連携が図られることが実感された。また、毎日更新している携帯サイトでの教育活動や緊急情報の発信、学校ホームページ、学校・学級便りを閲覧している保護者の増加が保護者アンケート結果より明らかとなっている。

今年度は、運動会の開催日程の変更や連絡網の見直し、保護者直接引き渡し訓練等の大きな学校改善を図ったが、保護者からいただいた高い評価に、保護者・地域の確かな信頼の高まりを実感することができた。

VI 他地域における学校評価

1 神戸市立成徳小学校の学校評価

学校規模も本校と同規模校であり、外部評価委員を「学校の応援団」、公表の意義を「保護者・地域の共感的理解」に置くとの考え方も納得できた。年2回の児童の学力定着度・生活実態調査を行い評価に生かしていた。民間に集計業務を委託していた。

2 神戸市立平野小学校の学校評価

学校長の強力なリーダーシップの下、教職員一丸となった具体的な学校改善を進めている。数値目標を設定し、学力（算数教室・全校一斉計算タイム・夏休みの補充）体力（全校体力づくり）思いやり（毎月のいじめ調査）の3アップ作戦を展開している。

VII 成果と課題

学校関係者評価を教育課程に位置付ける意義を年度始めに全教職員で共通理解したことで、教職員一人一人により確かな教育実践と自己点検を進める自覚を生み出すことができた。また、保護者・地域の評価をしっかりと受け止めていこうという視点から、児童・保護者アンケートの内容・取組み方を吟味し改善することができた。

今後、より確かな教育実践の検証へ向けた具体的授業評価の項目設定が課題である。

【参 考 文 献】

- ・「新・学校評価の論理と実践」 西村文男・天笠茂・堀井啓幸編 教育出版

資料

○評価項目一覧(本校の教職員評価と関連付け、重点化を図った児童・保護者アンケート・学校関係者評価の項目内容)

欄	期	教職員評価内容	児童アンケート内容	保護者アンケート内容	学校関係者評価内容
学校重点目標	1	重点目標の内容は、学校や児童の実態から見て適切である。	気をつけていることはどんなことですか。	*学校重点目標の認知	*教育方針や教育活動の説明がなされている
	2	重点目標の具体化に向けた教育課程が編成されている。		*本校の知徳体のバランス評価と期待	
	3	重点目標の具体化への教職員の共通理解が図れている。		*目指す子供の認知	
	4	進んで挨拶をするという行動目標は、重点目標の達成に結び付いている。		*子供像設定への評価	*挨拶しようとする姿が見られる
	5	しっかりと話を聞くという行動目標は、重点目標の達成に結び付いている。		*子供像設定への評価	*話を聞く姿が見られる
	6	めあてをもつという行動目標は、重点目標の達成に結び付いている。		学校でどんな力をつけたいと思いますか。	
教科・道徳・特活・総合実施状況	1	評価規準達成に向けた授業の構築が図られている。	どんな学習が好きですか。	*お子さんの学力の定着の評価	*学びが、いふれあいが見られる教育活動が展開されている
	2	児童の興味・関心を喚起する指導の展開が図られている。	学校での学習はよく分かりますか。	*教育ボランティアの周知、意見要望	*意欲をもって学習に取り組む高め合いのおうとする姿が見られる
	3	体験的・問題解決的な学習の工夫が図られている。	どんなことに自信がありますか。	*適切な教育活動展開への評価	*楽しく満足感のもてる授業が展開されている
	4	個に応じた適切なかわり方が図られている。	学校で一番楽しみな時間はどの時間ですか。	*本校教育活動全般への意見要望	*子供たち一人一人を大切に指導が展開されている
	5	教科・領域・総合的な学習の時間を横断的、発展的に生かす指導が図られている。	みどりのわいわいは楽しいですか。	*お子さんの心の育ちの評価	*体験的な活動、多様な学習形態が展開されている
	7	ノートや教材化を工夫し、児童の心を揺さぶる道徳の時間が展開されている。	TT ではどんな学習の仕方をしてほしいですか。		*教育活動を公開する場が適切に設定されている
	8	授業時間以外にも日常の活動を通して道徳心を涵養できている。			*信頼される教職員の姿が見られる
	9	学校行事が児童にとって魅力的なものになるよう絶えず工夫・改善されている。			*教師の熱意、研究への姿勢が見られる
	11	みどりのわ活動では豊かなかわり、心が育まれるような適切な教師の支援が図られている。			
	13	総合的な学習の時間では、児童の興味・関心を喚起した問題解決的な学習が展開されている。			
	14	TTの活用により個に応じた効果的な指導が展開されている。			
指導	1	基本的な生活習慣の向上に努め、あいさつ・話を聞く姿を身に付ける指導が図られている。	休み時間ほどのように過ごしますか。	*お子さんの生活の姿の評価	*安全への意識・行動が見られる
	2	児童の安全・健康への適切な指導が図られている。	安全教育は自分に役立っていますか。	*放課後の生活の様子について	
	3	児童の生活指導において、保護者との緊密な連携ができています。		*情報の周知への評価	*教育活動の様子が知らされている
情報 危機管理	2	ホームページ等、学校公開にかかわる適切な推進体制が図られている。		*安全対応への評価、意見要望	*校内の防犯体制が整えられている
	5	危機管理マニュアルが設定され、教職員全員に周知されている。		*緊急情報携帯サイトの活用実態	*安全にかかわる情報提供がなされている
	6	来校者や不審者に対する安全確保体制が図られている。			安全体制の取組は適切である
	7	防災・防犯に対する避難訓練が計画的に行なわれている。			*保護者・地域との連携を図った安全体制が展開されている
開かれた学校	3	児童・保護者・地域等、教職員以外の声を聞く場を設けている。		*教師・保護者の共通理解への評価	*保護者や地域の声を聞く場の設定している
	4	児童・保護者・地域等、教職員以外の声を尊重し学校改善に生かしている。		*懇談会の持ち方への評価	*共に子供を育てる保護者・地域との連携が図られている
	5	教職員による学校評価の取組が適切に行われている。		*本校教育への要望	*学校改善につながる学校評価が行われている